Kio University 2017

Graduate School of Health Sciences
Graduate School of Education

畿央大学大学院

入学案内 & 募集要項

健康科学研究科 健康科学専攻

修士課程 2年

- リハビリテーション・運動行動学分野
- 看護学分野
- 健康栄養学分野
- 環境デザイン学分野

博士後期課程 3年

- 健康生命科学分野
- 健康支援科学分野

教育学研究科 教育実践学専攻

修士課程 2年

- 教育実践学分野
- 発達支援教育分野

Kio
やさしさを
「チカラ」に変える。

畿央大学大学院で仕事と研究を両立。

INDEX

健康科学研究科　健康科学専攻　4

修士課程　6
- リハビリテーション・運動行動学分野
- 看護学分野
- 健康栄養学分野
- 環境デザイン学分野

博士後期課程　8
- 健康生命科学分野
- 健康支援科学分野

教員プロフィール　10

教育学研究科　教育実践学専攻　14

修士課程　16
- 教育実践学分野
- 発達支援教育分野

教員プロフィール　18

入学までの流れ／入学資格審査　19
修士課程募集要項　20
博士後期課程募集要項　21
出願共通事項　22
院生メッセージ／Q＆A／大学院紹介ムービー　23

院生実習費と特別奨学金制度

本学研究科では院生一人当たり修士課程は年間10~20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を指導教員の指導の下に研究活動に使用することができます。また、奨学金制度は成績優秀な学生を応援するために設けられており、年間30~35万円が給付されます。（P.22参照）

教育訓練給付金指定講座

健康科学研究科の修士課程および博士後期課程は教育訓練給付金指定講座です。これは働く社会人の能力開発を目的とした雇用保険からの給付制度で、指定講座を終了し、申請を行なった方に対して10万円を上限として支給されるものです。詳しくは学生支援センターまでお問い合わせ下さい。

2年間の学費で最大4年の長期履修制度（修士課程）

修士課程では長期履修制度を利用して、2年間の学費で履修年限を最大2年間延長することができます。仕事や家庭の都合で2年間での修了が難しい場合、また新たに教員免許状取得を希望する場合は長期履修制度を利用することができます。3年間あるいは4年間かかっても、学費総額は変わらず年数に応じて分割して支払っていただくことになります。入学後の計画変更も可能です。（P.22参照）

社会人に優しい時間割・研究環境

働きながら学びたいという方の希望に応えるため、授業は平日夜間（18:00 ～）と土曜日の他、夏季や春季に集中授業を行う時間割を設定しています。また、研究施設・設備は休日も含めて23時まで（一部は終日）利用できます。図書館は20時までですが、電子ジャーナルの閲覧等は学内のPCからいつでも利用することができます。実際に大学院の入学者の９割以上が働きながら学んでいます。

開講科目表（時間割例）　ライブ授業

健康科学研究科 修士課程（1年次前期）

	Ⅵ限 18:00 ～ 19:30	Ⅶ限 19:40 ～ 21:10
月	○スポーツ心理学特論	
火	○健康科学特論Ⅰ	●神経リハビリテーション学特論/演習
水	○健康科学特論Ⅱ	
木	必修 ○美しく生きるための健康科学総合特論	○人間工学特論
金	○健康科学特論Ⅴ	

土	Ⅰ限 9:00 ～ 10:30	Ⅱ限 10:40 ～ 12:10
	●カウンセリング特論	○健康科学特論Ⅲ

○共通科目　●専門科目

※専門科目の演習・特論は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決めていただきます。

教育学研究科 修士課程（1年次前期）

	Ⅵ限 18:00 ～ 19:30	Ⅶ限 19:40 ～ 21:10
月		●教育実践学演習
火	●発達支援教育実践演習	
水	必修 ●教育学特論Ⅰ（哲学・思想・史）	
木	必修 ○美しく生きるための教育学総合特論	○教育心理学特論
金	○教育学特論Ⅱ（教育方法・技術）	○統計解析評価演習

土	Ⅰ限 9:00 ～ 10:30	Ⅱ限 10:40 ～ 12:10	Ⅲ限 13:00 ～ 14:30
	●臨床・教育相談実践演習Ⅱ	○教育法制特論	必修 ○教育課題実践演習

○専門基礎科目　●専門科目

※研究指導を行う「演習Ⅰ」及び「特別研究Ⅰ」は、担当教員と打ち合わせの上、スケジュールを決めていただきます。

働きながら学べるライブ授業 ―自宅受講で単位取得が可能―

ほとんどの講義はインターネットを利用して実際の講義と同じ時間帯に自宅や職場で受講することができます。先生の声や動作、教材、板書などがリアルタイムに送信されるので教室と同じ条件で受講することが可能です。さらに授業を収録したオンデマンド教材が用意されるのでいつでも復習ができるのはもちろん、欠席者も都合がつく時間に学修することができます。また、Skypeを使って個別指導やグループディスカッション、発表など、遠隔の学生に対してもきめ細かな指導を行い、社会人学生の学びを保証しています。ライブ授業に対応しない「実践演習」や研究指導については担当教員と学生の打合せの上、スケジュールを決定します。

畿央大学大学院が求める学生像（アドミッションポリシー）

畿央大学大学院では健康科学もしくは教育学の各分野における高度な知識、技術等を一体的に修得し、他の専門職や関係者と連携する能力を備えて、課題解決への指導的役割を果たすことができる能力を身につけることを目標にしています。教育方法として、当該分野において活躍している社会人を大学院の学生として受け入れ教育を行うために、インターネットによる授業の配信や夜間開講を行っています。求める人材は以下の通りです。

1.自ら課題を設定して探求するための充分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究を行う意欲をもった者

2.高度な実践力をもった専門的職業人として、自律的に社会に貢献したいという態度を有している者

3.専門領域の内容について、学士課程卒業相当（博士後期課程では修士課程修了相当）の知識及び研究方法を身につけている者

研究科・課程毎の求める人材は以下の通りです。

健康科学研究科 修士課程
- 健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- 高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- 人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者

健康科学研究科 博士後期課程
- 健康科学分野にかかわる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究することのできる者
- 課程修了後は新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者

教育学研究科 修士課程
- 教育に携わることへの使命感と熱意を持ち、学部教育の上に、さらに実践的指導力を身につけることをめざす者
- 経験に裏付けられた理論的知識と実践的知識を省察し、さらに高度な専門的能力、資質を探求しようとする者
- 学校・地域社会との連携のもと、教育をめぐる教科や発達・学習に関する現代的諸課題について、論理的に考察しようとする者

健康科学研究科

健康科学専攻

健康科学分野のリーダーを養成　世界に発信する独創的な研究を

健康科学研究科長
金子　章道

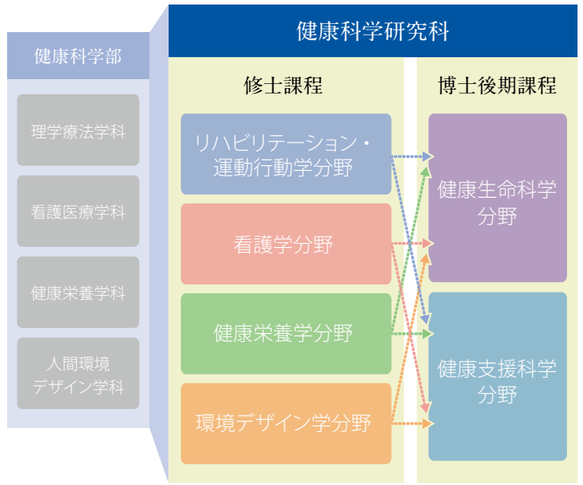
慶應義塾大学名誉教授
日本生理学会会長、
国際生理科学連合会長を歴任

畿央大学大学院健康科学研究科は、リハビリテーション、看護、栄養、住環境を専門分野とする大学卒業生や、すでに資格を得てその分野で活躍している方々がより高い目標に向かって学習し、研究を行うことを目的に10年前に設置されました。本研究科修士課程ではこれらの職場でリーダーとなり、やがては後輩の指導に当たることができる人たちを育てようとしています。また、実務を経験して自分の持っている知識に不足を感じている方たち、新たな疑問を感じてその解決に取り組もうとしている方々も対象になります。

さらに健康科学分野で高いレベルの研究を志す方を対象に博士後期課程が設置されています。既に164名の修士と18名の博士（健康科学）を世に送り出すことが出来ました。博士論文は国際学術雑誌に掲載され、高く評価されたものです。長期的な研究テーマに取り組むための環境も整い、活発な研究活動が展開されています。教員は研究指導に十分な資質を有しているだけでなく、自らも熱心に研究に取り組み、世界レベルの成果をあげています。人間の健康増進を科学する健康科学という新しい学問領域の開拓をめざし畿央大学大学院は発展しつつあります。優れた教育研究環境を自己研鑽の場に役立ててください。

心豊かで健やかな人間生活を追究する総合的取り組み

WHOは「健康とは単に病気でない、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも健全な状態であること」と定義しています。つまり健康は医療だけでは実現せず、精神的な健康と、衣・食・住に代表される生活環境が整備されて初めて成立するものです。健康科学研究科の修士課程ではリハビリテーション・運動行動学、看護学、健康栄養学、環境デザイン学の四つの分野から健康を追究します。また博士後期課程においてはその四分野を一度合体させ、人間の健康維持・増進に必要な生体機能を研究する「健康生命科学分野」と、人間の健康維持・増進を最も効果的に支援できる方法を研究する「健康支援科学分野」をおき、健康に関する最先端から応用までの幅広い研究を行います。これらは全国の大学院でも初めての試みで、よりよい生活の質（QOL）の実現に貢献します。



特別研究指導教員一覧

修　士　課　程

分野		氏名・職位		参照P
リハビリテーション・運動行動学分野	神経リハビリテーション学	金子　章道◎	教授	P10
		森岡　周◎	教授	P10
		松尾　篤◎	教授	P10
		岡田　洋平◎	准教授	P10
		冷水　誠◎	准教授	P10
		前岡　浩	准教授	P10
		信迫　悟志	助教	P10
	呼吸リハビリテーション学	田平　一行◎	教授	P10
	物理医学系リハビリテーション学	庄本　康治◎	教授	P11
		高取　克彦◎	准教授	P11
	運動生理機能学	今北　英高◎	教授	P11
		峯松　亮◎	教授	P11
		永澤　健◎	准教授	P11
	スポーツ科学	東山　明子◎	教授	P11
		瓜谷　大輔	准教授	P11
		福本　貴彦	准教授	P11
看護学分野	看護学	河野　由美◎	教授	P12
		堀内　美由紀	教授	P12
		松本　泉美	教授	P12

分野		氏名		参照P
看護学分野	看護学	山崎　尚美◎	教授	P12
		山本　裕子◎	教授	P12
		廣金　和枝	准教授	P12
		堀江　尚子◎	准教授	P12
		文　鐘聲◎	准教授	P12
		祐實　泰子◎	講師	P12
健康栄養学分野	健康栄養科学	小西　洋太郎◎	教授	P12
		金内　雅夫◎	教授	P13
		栢野　新市◎	教授	P13
		前原　佳代子◎	教授	P13
		山本　隆◎	教授	P13
		村木　悦子	准教授	P13
環境デザイン学分野	環境デザイン学	三井田　康記◎	教授	P13
		東　実千代◎	教授	P13
		藤井　豊史◎	教授	P13
		西山　紀子	教授	P13

博　士　後　期　課　程

分野		氏名・職位		参照P
健康生命科学分野	生体機能科学	金子　章道◎	教授	P10
		山本　隆◎	教授	P13
		東山　明子	教授	P11
		永澤　健◎	准教授	P11
健康支援科学分野	健康リハビリテーション科学	森岡　周◎	教授	P10
		今北　英高◎	教授	P11
		庄本　康治◎	教授	P11
		田平　一行◎	教授	P10
		峯松　亮◎	教授	P11
		松尾　篤	教授	P10

分野		氏名		参照P
健康支援科学分野	健康リハビリテーション科学	岡田　洋平	准教授	P10
		冷水　誠	准教授	P10
		高取　克彦	准教授	P11
	健康生活環境科学	小西　洋太郎◎	教授	P12
		金内　雅夫◎	教授	P13
		東　実千代	教授	P13
		栢野　新市	教授	P13
		前原　佳代子	教授	P13

◎マーク…主担当可能

健康科学研究科 健康科学専攻

修士課程　2年

【 よりハイレベルな専門職業人をめざす 】

募集対象

- 現場で働きながらスキルアップをめざす理学療法士、作業療法士、看護師、管理栄養士、建築士等の専門的職業従事者
- 職場のリーダーや管理職をめざす専門的職業人
- それぞれの専門分野で教育者、研究者をめざす者

修士課程

修了後の進路

- 大学院博士後期課程への進学
- 国公私立の研究所、試験機関などの研究者
- 大学・短大・専修学校など教育機関の教員
- 企業での研究者
- 専門職の公務員
- 専門理学療法士
- 病院・施設などの職場におけるリーダー

取得できる学位　健康科学研究科修士課程　修士（健康科学）　（Master of Health Science）

論文作成の流れ

1年次

進路に関わらずすべての学生が研究マインドを持ち研究活動を継続できるスキルを身につけるよう指導

- 4月　指導教員決定
- 7月　研究テーマ決定
- 9月　研究開始

2年次

- 9月　中間発表会
- 1月　論文提出　最終発表
- 2月　最終試験論文審査

審査基準
- ○研究遂行の基礎となる専門的知識・その他広範な知識
- ○オリジナリティ
- ○論理的思考力・考察力
- ○表現力（プレゼンテーション）
- ○企画・実行・検証・展開・発展能力など

※院生一人あたり1年次は15万円、2年次は20万円の院生実習費を、指導教員の指導の下に研究のために使用することができます。

履修モデル

		共通科目	単位	専門科目	単位	合計	学位論文
1年次	前期	美しく生きるための健康科学総合特論 必修	2	神経リハビリテーション特論	2	16	研究テーマの決定
		健康科学特論Ⅰ	2				
		健康科学特論Ⅲ	2	神経リハビリテーション演習	4		
		スポーツ心理学特論	2				
		高齢社会科学特論	2				
	後期	先端バイオサイエンス技術特論	2	―		6	基礎資料・データの収集・分析
		健康科学特論Ⅳ	2				
		統計解析評価特論	2				
2年次	前期	―		特別研究	10	10	研究テーマに基づく研究・実験と学位論文の作成
	後期	―					
合計		16		16		32	

開設科目一覧

必　修

美しく生きるための健康科学に取り組む

美しく生きるための健康科学総合特論

健康への関心は高まる一方、なぜ健康でありたいのかということを忘れて、「健康な身体」自体が目標になりがちである。本研究科では健康をQOL（生活の質）に関連付け、よく生きる、美しく生きることを目標に掲げて、物質生活・精神生活・社会生活のトータルにおいて良好な状態を実現することが大切だと考える。そこで脳科学、神経科学、栄養科学、人間環境学、教育学の各分野の研究者がチームを組み、QOLの観点から健康科学を有機的・総合的に再構成し、人間にとっての理想であり目標である「美しいライフデザイン」を追究する科目を設けた。これは、心豊かで健やかな人間生活をめざす総合的取り組みを進める本研究科の特色を象徴した科目であり、必修のコア科目として位置づけるものである。

特色ある科目

健康科学特論Ⅰ

健康の維持増進を図る仕事に携わる者にとって、人体の仕組みや営みを知ることは最低限必要なことである。健康科学特論Ⅰでは、「行動」、「感覚」、「脳・神経」など、人の持つ動物性機能を体系的に、かつ統合的に把握することを目的とした授業を行う。すなわち、脳神経系の働きを生体膜、イオンチャネル、輸送体など分子、細胞レベルで理解させ、さらに進めて感覚受容、言語理解などシステムとしての理解へつなげる。最終的に、人間の行動の基礎を深く理解させることをめざす。

先端バイオサイエンス技術特論

健康科学の進歩のため、さまざまな先端バイオサイエンス技術が用いられている。本特論では、どのような先端技術が存在するのか、それはどのような原理に基づいているのか、どのように応用されているかなどについて解説する。すなわち、脳神経系の動きを分子、細胞レベルで研究するための電気生理学的技術、光学イメージング技術、組織化学的技術などを解説し、学生各自の研究への応用につなげる。また、高次脳機能の研究方法としての各種イメージング技術の原理とその応用についても解説する。

	科目名	単位	修了要件
共通科目	美しく生きるための健康科学総合特論 必修	2	7科目14単位
	健康科学特論Ⅰ（脳、神経、感覚、行動）	2	
	健康科学特論Ⅱ（臓器、循環、代謝、運動）	2	
	健康科学特論Ⅲ（分子、栄養、遺伝子、生化学）	2	
	健康科学特論Ⅳ（認知、学習、記憶、発達）	2	
	健康科学特論Ⅴ（看護学、ヒューマンケア学等）	2	
	先端バイオサイエンス技術特論	2	
	健康増進医科学特論	2	
	臨床・社会調査研究法特論	2	
	統計解析評価特論	2	
	スポーツ心理学特論	2	
	ケアリング特論	2	
	カウンセリング特論	2	
	専門職教育方法特論	2	
	高齢社会科学特論	2	
	人間工学特論	2	
	環境科学特論	2	
専門科目	神経リハビリテーション特論	2	特論2単位＋演習4単位
	神経リハビリテーション演習	4	
	呼吸リハビリテーション特論	2	
	呼吸リハビリテーション演習	4	
	物理医学系リハビリテーション特論	2	
	物理医学系リハビリテーション演習	4	
	運動生理機能学特論	2	
	運動生理機能学演習	4	
	スポーツ科学特論	2	
	スポーツ科学演習	4	
	看護学特論	2	
	看護学演習	4	
	健康栄養科学特論	2	
	健康栄養科学演習	4	
	環境デザイン学特論	2	
	環境デザイン学演習	4	
	インターンシップA（学内）※	6	
	インターンシップB（学外）※	6	
	特別研究 必修	10	特別研究の論文審査及び最終試験合格で10単位

※インターンシップAもしくはBいずれかの単位を取得し、本大学院を修了することで、一級建築士受験資格に必要な実務経験2年のうちの1年とみなされます。

修了要件および履修方法

1・2年次 共通科目 14単位 ＋ 1・2年次 特論・演習 6単位 ＋ 2年次 特別研究 10単位

共通科目から14単位以上、専門科目から16単位以上を修得し、本大学院が行う修士の論文審査および最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

健康科学研究科 健康科学専攻

博士後期課程 3年

健康生命科学分野 Health and Life Sciences

人体の構造や機能が、摂取する食物などの栄養素や、日常生活に伴う運動・行動および生活環境によってどのように影響を受けるかを研究対象とし、基礎医学的な方法により研究を行います。将来的には研究者、教育者の育成をめざします。

健康支援科学分野 Health Promotion Sciences

人間の健康維持・増進を最も効果的に支援出来る方法を明らかにするため、新しい理学療法や、食、住環境の今後のあり方を求めて研究を行います。優れた研究能力を持ち高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成をめざします。

開設科目と授業担当者

科目区分	授業科目の名称	単位	健康支援科学分野　担当教員
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	金子章道・森岡周・金内雅夫・小西洋太郎・前原佳代子・山本隆・永澤健
	インタープロフェッショナルワーク論	1	田平一行・東実千代・山崎尚美・上地加容子・金内雅夫・文鐘聲・高取克彦・福本貴彦
	修了要件　共通科目2科目必修2単位		

科目区分		領域	授業科目の名称	単位	担当教員
専門科目	健康生命科学分野	生体機能科学	生体機能科学特講	2	金子章道・山本隆・東山明子・永澤健
			生体機能科学特講演習	2	
	健康支援科学分野	健康リハビリテーション科学	健康リハビリテーション科学特講	2	森岡周・今北英高・庄本康治・田平一行・峯松亮・松尾篤・岡田洋平・高取克彦・冷水誠
			健康リハビリテーション科学特講演習	2	
		健康生活環境科学	健康生活環境科学特講	2	小西洋太郎・金内雅夫・東実千代・栢野新市・前原佳代子
			健康生活環境科学特講演習	2	
		修了要件　特講2単位＋特講演習2単位			
	分野共通	特別研究		6	上記の教員
		修了要件　特別研究の論文審査で6単位			

履修モデル

健康生命科学分野

学生プロフィール
本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程から進学し、将来、健康生命科学分野における教育者・研究者として業務に就くことを目標としている者。

志望理由
本研究科修士課程において、ヒトの視覚認知研究を行ったが、そのエビデンスを追究する目的で、実験動物なども用いて発展させるために博士後期課程に進学を希望。

研究課題
「視覚系におけるシナプス可塑的変化機構に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	P9参照
	インタープロフェッショナルワーク論	1	P9参照
専門科目	生体機能科学特講	2	イオンチャネルやトランスポータ、シナプス伝達、シナプス可塑性、筋収縮、感覚受容、感覚の中枢処理、中枢の統御機能など動物性機能や代謝、呼吸循環など人体のホメオスタシスに関するや植物的機能に関して学ぶ。
	生体機能科学特講演習	2	動物性機能あるいは植物性機能における新規的なメカニズムを明らかにするための実際の実験手法を実践的に修得する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合　計		12	

健康支援科学分野

学生プロフィール
本研究科修士課程、あるいは他学の修士課程を修了した理学療法士で、将来、臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する者。

志望理由
理学療法士の資格取得後3年間民間病院で勤務し、働きながら修士号を取得。その後、老健施設への配属となるが、施設入所者個々の活動状態に応じた生活障害の改善と自立支援の方策を明らかにすることを目的に進学を希望。

研究課題
「インタープロフェッショナルワークの実践による介護老人保健施設入所者の生活障害改善および自立支援に関する研究」

科目	授業科目	単位	内容
共通科目	先端ヘルスサイエンスセミナー	1	P9参照
	インタープロフェッショナルワーク論	1	P9参照
専門科目	健康リハビリテーション科学特講	2	健康科学といった学際的な視点から、各領域のリハビリテーション科学について、総合リハビリテーション学（生活援助科学）から、内外の最新知見を学ぶ。
	健康リハビリテーション科学特講演習	2	総合リハビリテーション学（生活援助科学）領域における明らかにすべき問題を探り、その問題を解決するための新しい研究デザインを検討する。
	特別研究	6	研究課題の通り
合　計		12	

募集対象		修了後の進路
●高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者 ●健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者 ●人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者 ●新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者	博士後期課程	●創造性豊かなすぐれた研究・開発に自立して取り組むことのできる研究者 ●確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた高等教育機関の教育研究者 ●課題解決型の研究に取り組む、高度かつ指導的役割を果たすことができる専門的業務従事者

取得できる学位　健康科学研究科博士後期課程　博士（健康科学）（Doctor of Philosophy in Health Science）

必　修

先端ヘルスサイエンスセミナー

内外の最先端の健康科学に関連する学際的な研究手法を学ぶ。本学大学院の特に優れた研究業績を挙げている専任教員から、それぞれの領域における詳細な研究手法をオムニバス形式で学び、積極的な討論を経て、博士論文作成に必要な知を涵養する。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目とする。

インタープロフェッショナルワーク論

リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士など）、看護職、栄養士、建築士をはじめとして、医学、福祉学、工学、理学、環境学、社会科学など異なる教育的背景をもつ学生が、ヘルスプロモーションという共通の目標に向かって課題を探求し相互に学ぶプロセスをとおして、専門職間の連携と協働の意義や方法論を修得するものである。これにより、学生の多角的な視点を育て、特定領域にしばられない新しい発想と論理的・創造的思考力を培うことをねらいとしている。本科目は分野共通の必修科目とし、メディアを利用した科目とする。

論文作成の流れ

入学時に研究分野とその意向を考慮して、学生ごとの指導教員を定める。指導教員は、担当学生の理解度、進度を把握し、必要な助言と指導を行う。学生は、文献その他の資料を収集、調査、分析し、学部、修士課程の実習指導に参画し、指導教員の指導の下に研究活動を行う。

1年次
- 4月　指導教員決定
- 6月　研究テーマ決定
- 7月　研究開始

2年次
- 9月　第1回中間発表会

3年次
- 7月　第2回中間発表会
- 1月　論文提出
- 2月　最終発表会
- 2月　論文審査／最終試験

審査基準
主論文は査読のある国際（英文）学術雑誌に掲載されたもの、あるいは掲載が決定しているもの1篇以上とし、発行の場所は国内外を問わない。単著あるいは筆頭著者以外は不可。研究内容が国際的評価に馴染まない分野にあっては邦文で書いた学位論文も可とするが、内容の一部はその分野の学術雑誌に発表されたもの（掲載が決定しているもの）を含むことが必要である。

※院生一人あたり年間20万円の院生実習費を指導教員の指導の下に利用することができます。

Q & A

Q 学位論文作成に4年以上かかりそうです。長期履修の制度はありますか？

A 博士後期課程に長期履修制度はありません。3年を超えて在籍し研究活動を続ける場合の授業料等は、半期分50,000円、通年で100,000円で、最長入学後から6年間在籍できます。

Q 研究でデータを取るため、深夜から朝まで研究施設・設備を使いたいのですが可能でしょうか？

A 実験系の研究では24時間通してデータを取得し続けなくてはいけないものもあり、また社会人学生が多く、夕方からの本格的な実験を希望する学生が多いのも本学の特色です。そこで研究施設・設備については特別に24時間使用できる環境を整えています。

教員プロフィール

金子　章道 健康科学研究科長・教授
博士(医学)慶應義塾大学、慶應義塾大学名誉教授

慶應義塾大学助手(医学部生理学)、講師、助教授を経て国立生理学研究所教授、慶應義塾大学教授(医学部生理学)、星城大学教授を経て、平成19年4月から本学健康科学部学部長・教授、大学院健康科学研究科研究科長・教授。日本生理学会会長、国際生理科学連合会長を歴任。公益財団法人ノバルティス科学振興財団代表理事。大学卒業後ほぼ50年間、主として電気生理学的な方法を用いて網膜の機能を研究して来た。

テーマ例
視細胞が光を受容するメカニズム、網膜における色覚のメカニズム、物の形を検出するメカニズム、動きを検出するメカニズムなどである。最近では視覚における側抑制にpHが関与しているという新しい仮説を提唱した。

冷水　誠 准教授
博士(保健学)神戸大学

理学療法士として臨床経験後、神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程を修了し博士(保健学)を取得。平成16年度より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、同助教を経て平成24年度より准教授として運動学習および動作制御メカニズムに関する研究に取り組んでいる。

テーマ例
○効果的な運動学習をもたらす介入方法に関する研究
○社会的報酬がヒトの行動変容に及ぼす影響に関する研究
○姿勢および歩行制御の神経メカニズム解明とその治療に関する研究

庄本　康治 教授
博士(保健学)神戸大学

臨床活動は府中病院、ベルランド総合病院、大阪厚生年金病院(JCHO大阪病院)で実施。2007年から畿央大学健康科学部理学療法学科、大学院健康科学研究科教授。日本物理療法学会(評議員監事)、日本理学療法士協会、奈良県理学療法士協会。物理療法全般に関する臨床研究を中心に実施している。

テーマ例
○TENSが鎮痛に与える影響(基礎・臨床)　○NMESが末梢循環、筋力に与える影響(基礎・臨床)　○FES開発と臨床効果　○直流前庭刺激の臨床的効果　○長時間持続的超音波療法の与える影響(基礎・臨床)

永澤　健 准教授
博士(医学)東京医科大学

東京医科大学大学院医学研究科博士課程修了。東京医科大学医学部基礎研究員、広島工業大学情報学部助教・生命学部准教授を経て畿央大学健康科学部健康栄養学科准教授。専門は運動生理学とスポーツ栄養学。骨格筋の代謝・循環の応答機序に関する運動生理学的研究とスポーツ選手の栄養管理に関する研究に取り組んでいる。日本体力医学会評議員。

テーマ例
○骨格筋の伸長による抗生活習慣病作用の解明
○スポーツ選手における運動後の栄養管理に関する研究
○血管機能改善に効果的な食成分とその作用機序に関する研究

森岡　周 研究科主任・教授
博士(医学)高知医科大学

近森リハ病院で勤務後、活動を臨床から教育研究に。1997年フランス・サンタンヌ病院に留学し姿勢制御と神経疾患の臨床研究を行う。その後高知医科大学大学院で知覚研究を行い学位取得。本学助教授を経て現在大学院健康科学研究科主任・教授・ニューロリハ研究センター長として教育と脳科学研究に取り組んでいる。日本ペインリハ学会副理事長、日本運動器疼痛学会代議員。脳科学と臨床医学の接点を示した多くの研究業績で知られている。

テーマ例
○高次脳機能障害のメカニズムとニューロリハビリテーション　○慢性痛のメカニズムとニューロリハビリテーション　○脳卒中後運動障害のメカニズムとニューロリハビリテーション　○発達障害のメカニズムとニューロリハビリテーション

前岡　浩 准教授
博士(保健学)神戸大学

神戸大学大学院医学系研究科修士課程および神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。理学療法士として病院で勤務後、平成19年より畿央大学健康科学部理学療法学科助手として勤務し、その後同准教授として教育および研究活動を継続。日本理学療法士協会専門理学療法士（神経理学療法）を取得し、疼痛関連領域に関する研究活動を行う。

テーマ例
○痛みの中枢機構におけるメカニズム研究
○痛みの情動、共感および社会的痛み研究
○痛みに対する治療戦略に関する研究

高取　克彦 准教授
博士(保健学)神戸大学

大阪厚生年金病院リハビリテーション科、西大和リハビリテーション病院リハビリテーション部技師長を経て、畿央大学健康科学部理学療法学科准教授。日本予防医学会認定予防医学指導士、奈良県健康長寿共同事業実行委員会委員、生駒市介護保険運営協議会副会長として地域高齢者の介護予防、転倒予防、健康増進分野にて研究活動を続けている。

テーマ例
○介護予防事業における運動介入と身体機能改善効果について
○地域高齢者の転倒リスクアセスメントについて
○介護予防サポーター養成がソーシャルキャピタル強度に及ぼす影響について

東山　明子 教授
博士(医学)滋賀医科大学、博士(学術)奈良女子大学

日本スポーツメンタルトレーニング指導士会理事長、日本禁煙科学会理事、日本スポーツ心理学会資格認定委員。スポーツメンタルトレーニング上級指導士および上級禁煙支援士。滋賀県立短期大学家政科幼児教育専攻講師から滋賀県立大学人間文化学部等を経て、2007年から畿央大学および大学院健康科学研究科教授。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。

テーマ例
○心理学的アプローチによるアスリートのパフォーマンス向上
○パーソナリティ特性とパフォーマンス発揮に関する研究
○禁煙と心理の関係の検討

松尾　篤 教授
博士(保健学)神戸大学

平成15年から畿央大学助手、その後同助教、准教授を経て平成26年から畿央大学大学院教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター教授も併任し、社会神経科学と神経リハビリテーションの融合と発展に尽力している。

テーマ例
○コミュニケーションに関連する社会神経科学研究
○脳卒中後の運動障害に対する神経リハビリテーション研究

信迫　悟志 助教
博士(健康科学)畿央大学

神戸総合医療介護福祉専門学校卒業にて理学療法士免許取得。平成13年から平成27年の間に、特定医療法人順心病院、大津赤十字および大津赤十字志賀病院、医療法人孟仁会摂南総合病院、東大阪山路病院、南荘の郷にて理学療法士として勤務。平成21年に畿央大学大学院健康科学研究科修士課程を修了し、平成24年に同大学院博士課程を修了。

テーマ例
○高次脳機能障害(失行・失認)に対するニューロリハビリテーション
○運動発達障害に対するニューロリハビリテーション
○慢性疼痛に対するニューロリハビリテーション

今北　英高 教授
博士(保健学)広島大学

日本基礎理学療法学会理事。広島大学大学院在学中は、広島医療保健専門学校(現、広島都市学園大学)にて教職に就く。同大学院博士後期課程を修了後、畿央大学に着任。尚、2012年9月より1年間、在外研究員として、米国North Carolina Research Campus (Appalachian State University: Human Performance Laboratory)にて研究活動を行う。在外研究での経験を活かし、日本の理学療法研究者の育成・グローバル化について展開している。

テーマ例
○COPDにおける運動介入が、筋機能・呼吸機能に与える影響(基礎研究)　○肝機能障害に対する予防的運動効果の検討(基礎研究)　○筋損傷と筋再生における加齢の影響(基礎研究)　○身体活動量とストレスホルモンとの関係および理学療法介入

瓜谷　大輔 准教授
博士(医学)兵庫医科大学

日本理学療法士学会徒手理学療法部門運営幹事、日本徒手理学療法学会理事・事業部長、日本理学療法士協会専門理学療法士(運動器、生活環境支援)、認定理学療法士(徒手理学療法)2000年に神戸大学医学部保健学科卒業後、病院勤務、専門学校講師を経て2007年畿央大学に着任。専門は運動器障害理学療法。WCPT2015 Early Career Researcher Award、平成27年度運動器の10年日本賞優秀賞を受賞。

テーマ例
○足趾機能と下肢関節へのメカニカルストレスの関係の解明
○顎関節機能障害に対する理学療法
○徒手理学療法の効果判定

岡田　洋平 准教授
博士(保健学)大阪府立大学

畿央大学健康科学部理学療法学科准教授。畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター身体運動制御学部門にも所属。応用健康科学、リハビリテーション科学、神経疾患のリハビリテーションの領域で研究活動を続けている。日本理学療法士協会に所属しており、専門理学療法士(神経系)を取得している。

テーマ例
○ヒトの運動制御機構に関する研究
○姿勢、歩行制御の神経機構とリハビリテーション　○運動学習
○神経疾患の運動障害のメカニズムとリハビリテーション

田平　一行 教授
博士(保健学)広島大学

日本呼吸理学療法学会運営幹事、奈良県理学療法士協会理事。大久保病院、聖隷三方原病院、国家公務員共済組合連合会吉島病院にて主に呼吸器疾患患者の理学療法に従事した後、畿央大学健康科学部講師、准教授、教授。その間、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員、奈良県理学療法士協会専門領域委員会委員長、第23回奈良県理学療法士学会学会長など務める。呼吸リハビリテーションに関する執筆や研修会講師として活躍。

テーマ例
○呼吸器疾患患者における骨格筋酸素動態の臨床的検討
○喀痰排出能力としてのCPFの妥当性と関連する要因についての検討
○咳嗽能力判定システムの開発

峯松　亮 教授
博士(保健学)広島大学

広島大学医学部保健学科を卒業後、広島大学医学系研究科保健学専攻修士課程および博士課程を修了。2003年に畿央大学健康科学部に着任、現在に至る。介護支援専門員、日本理学療法士協会専門理学療法士(基礎系、生活支援系)、骨粗鬆症学会骨粗鬆症マネージャーの資格を有し、関連学術分野で研究活動を続けている。

テーマ例
○骨粗鬆症に関する基礎的・臨床的研究について
○高齢者の身体機能について

福本　貴彦 准教授
修士(医科学)和歌山県立医科大学

九州リハビリテーション大学校と九州工業大学を卒業し、一人医工コラボレーションをしている。九州労災病院で10年の臨床経験を積んだのちに畿央大学へ就職。臨床時代は、工学部で培った力学の知識を使い、加速度計を用いたスポーツ動作の力学的解釈をしていた。現在は、三次元動作解析装置を使用して、客観的に様々な動作を捉えるとともに、臨床現場で簡便に計測できる評価機器の開発などを行っている。

テーマ例
○スポーツ動作解析　○軟性装具の開発
○足指握力の標準値作成
○足指握力と身体運動との関係調査

教員プロフィール

河野　由美 教授
博士(文学)大阪市立大学

看護師として8年間勤務した後、島根大学に1回生から入学し、教育心理学を学ぶ。その後、大阪市立大学文学研究科で社会心理学を専攻する。大学院在籍中から大学で教鞭をとり、外郭団体シンクタンクで主任研究員を務め大規模調査を実施。日本グループ・ダイナミックス学会(実験社会心理学研究)で「優秀論文賞」を受賞。社会・文化的な観点に立ち実証的にアプローチする社会心理学の視座から、生老病死を研究している。

テーマ例
- ○ヒューマンケアに関する心理学的研究
- ○死生観など死に関連した態度とSpiritualityに関する心理学的研究
- ○在宅ターミナルケア(看取り)と高齢者のターミナルケアに関する研究

廣金　和枝 准教授
博士(保健学)大阪大学

総合病院での助産師経験を経て、中学校・高等学校の保健室に11年間勤務、子どもたちの健康管理に携わる。慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程において、コミュニティスクール、住民参加型まちづくりなどの実証研究を通して、コミュニティ論を修める。大阪大学博士後期課程で、食行動異常の発現予測尺度を開発し、現在も思春期女子の健康管理を主軸に研究を続けている。2012年より畿央大学講師、2014年より現職。

テーマ例
- ○思春期女子における食行動異常の早期発見と早期対応システムの構築
- ○学校を拠点にした公衆衛生看護活動のあり方に関する研究
- ○地域でリスクを抱える母と子への支援と連携のあり方に関する研究

金内　雅夫 教授
博士(医学)奈良県立医科大学

奈良県立医科大学医学部医学科助手、講師、助教授を経て畿央大学健康科学部健康栄養学科教授。日本腎臓学会学術評議員、日本病態栄養学会評議員、日本老年医学会学術評議員として学会活動に参画。臨床栄養学、腎臓病学、老年医学の領域で研究活動を続けている。日本医師会認定の健康スポーツ医でもある。

テーマ例
- ○食事の質と肥満・高血圧のリスクについて
- ○虚弱高齢者(フレイル)の低栄養症候群とQOL
- ○介護従事者の健康観と食事栄養調査

三井田　康記 教授
修士(工学)京都大学

設計事務所勤務を経て、畿央大学健康科学部教授。奈良市開発審査会委員、桜井市都市計画委員会委員長、景観審査会委員長などを務める。「あしびや」、「薬師堂の家」等の建築作品により「奈良景観調和デザイン賞」、「奈良市建築文化賞」など受賞。特定非営利活動法人さんが俥座理事長、大和町家バンクネットワーク顧問など奈良県各地のまちづくり活動にかかわる。一級建築士。

テーマ例
- ○新町家の創造
- ○昔ながらの町家の空間研究と活用
- ○町並みの修景とまちづくりへの活用に関する研究

堀内　美由紀 教授
博士(学術)神戸大学

関西圏の医療機関で助産師として勤務、阪神大震災を経験したことで看護管理や災害医療に関心を持ち看護大学へ編入し保健師資格を取得。その後、大学院では国際協力政策を専攻した。在学中に独立行政法人国際協力機構技術協力専門家研修員・専門家として東南アジアやサブサハラアフリカ、大洋州島嶼国で母子保健やマラリア対策に関する事業に携わった。神戸市看護大学助産学専攻科、奈良県立医科大学非常勤を経て、2009年より畿央大学。

テーマ例
- ○防災・減災における自助・共助力を高める介入方法に関する研究
- ○開発途上国における高齢化の課題と対策に関する研究
- ○グローバリゼーションが健康に及ぼす影響に関する研究

堀江　尚子 准教授
博士(学術)大阪大学

看護師、認定心理士。大阪市立大学G-COE特別研究員、奈良県立医科大学医学部看護学科講師を経て畿央大学に勤務し、在宅看護学を担当。2007年、大阪YMCA創立125周年記念研究論文奨励賞受賞。ホームレスの入所する生活保護関連施設で長期的なフィールドワークに取り組み、社会的弱者の支援関係のグループ・ダイナミックスについて研究を行っている。

テーマ例
- ○貧困単身高齢者の孤独死問題に関する研究
- ○在宅多死時代における療養の課題に関する研究
- ○看護学生の学習における自律性の促進に関する研究

栢野　新市 教授
博士(学術)大阪市立大学

大阪市立大学生活科学部食物学科卒業。三基商事株式会社総合研究所にて機能性食品の研究開発に従事した後、平成16年に畿央大学健康科学部助手、平成21年より現職。この間、大阪市立大学大学院生活科学研究科客員研究員を経て客員助教授。日本農芸化学会会員、日本栄養・食糧学会会員、日本栄養改善学会会員、日本食品化学学会会員、日本栄養学教育学会代議員、カリフォルニア・レーズン協会健康栄養アドバイザー。

テーマ例
- ○ドライフルーツが有する機能性の評価に関する研究
- ○植物性食品素材に含まれる機能性成分の構造解析および定量法に関する研究
- ○新しい抗酸化性評価方法の開発に関する研究

東　実千代 教授
博士(学術)奈良女子大学

奈良女子大学生活環境学部助手、奈良女子大学大学院人間文化研究科助手、畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科助教、准教授を経て現職。日本家政学会、国際家政学会、日本建築学会、室内環境学会、人間生活-環境系学会等に所属し、住居学、住環境学の領域で研究・教育活動を続けている。室内環境学会、人間生活-環境系学会評議員。

テーマ例
- ○室内空気質の実態と居住者の住まい方
- ○温熱生理・心理反応の個人差
- ○室内環境・生活習慣と健康

松本　泉美 教授
博士(学術)奈良女子大学

奈良文化女子短期大学助教　白鳳女子短期大学講師　神戸常盤大学講師　畿央大学健康科学部　看護医療学科准教授を経て教授。日本産業衛生学会代議員、日本産業看護学会評議員の他、日本看護研究看護学会、日本看護科学会、日本公衆衛生看護学会等看護学領域のほか、禁煙支援や介護予防などのヘルスプロモーション分野で研究成果を発表し、研究活動を続けている。

テーマ例
- ○高齢者の介護予防の観点からの健康状態の評価
- ○地域母子保健分野における禁煙支援介入研究
- ○産業看護職の実践能力向上に関する研究

文　鐘聲 准教授
博士(保健学)大阪大学

日本公衆衛生学会認定専門家。太成学院大学講師、准教授を経て、畿央大学准教授。2015年より広陵町と協働した住民の健康増進及び介護・認知症施策に寄与する研究であるKAGUYAプロジェクト代表。また、百寿者を含む在日コリアン高齢者の健康と生活に関する総合的な研究、奈良県内の高齢者を対象としたコホート研究(藤原京スタディ)にて社会経済的要因と男性高齢者の骨密度の関係について研究を行っている。

テーマ例
- ○地域在住高齢者の社会経済的地位、ソーシャル・キャピタルと健康に関する研究
- ○健康の社会的決定要因(健康格差)に関する研究
- ○在日外国人の健康と生活に関する研究

前原　佳代子 教授
博士(医学)浜松医科大学

浜松医科大学医学部卒業後、産婦人科医として研修を開始する。同大学大学院医学研究科博士課程を修了後、国立長寿医療研究センター、英国パターソンがん研究所、久留米大学分子生命科学研究所で基礎老化研究に従事する。その後、国立成育医療研究センター周産期病態研究部胎児発育研究室長として周産期疾患のゲノム解析を行う。2015年から現職。医学領域の教育と分子生物学的な手法を用いた医学研究に携わっている。

テーマ例
- ○ゲノム編集を利用した疾患モデル細胞の作製と疾患関連遺伝子の機能解析
- ○老化特異的エピゲノム環境の網羅的解析

藤井　豊史 教授
修士(工学)大阪大学

大阪大学大学院(環境計画学専攻、上田篤研究室)修了後、(株)大杉喜彦建築綜合研究所勤務を経て、(有)スタディオS.E.A.一級建築士事務所(http://www.s-sea.com/)設立・同主宰。
畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科教授を併任。建築家、一級建築士。

テーマ例
- ○建築・住宅の設計(デザイン的アプローチ)
- ○建築・住宅の設計(技術的アプローチ)
- ○建築・住宅の設計(歴史的アプローチ)

山崎　尚美 教授
博士(看護学)愛知県立大学

日本看護福祉学会指名理事、奈良県認知症ケア専門士会会長、愛知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。藍野大学保健医療学部看護学科助手、兵庫医療大学看護学部講師、宮城大学看護学部・看護学研究科准教授を経て、平成26年より畿央大学教授。認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムについて成果をまとめた。平成26年には、関西地区で初めて奈良県下に認知症ケア専門士会を設立した。

テーマ例
- ○認知症高齢者の終末期ケアに関する研究
- ○グループホームの介護職と看護職の連携に関する研究
- ○介護する家族の介護負担軽減に関する研究

祐實　泰子 講師
博士(医学)大阪大学

大阪大学大学院医学修士課程修了後、同大学院にて博士号取得。博士取得後、大阪バイオサイエンス研究所にて特別研究員として、がんの分子メカニズムについて研究を行う。企業研究所にてがんの分子メカニズムの研究を続け、新たな創薬ターゲットとなる分子メカニズムや分子の同定を目指して研究を行う。

テーマ例
- ○乳がんの再発メカニズム
- ○がんの微小環境と治療抵抗性

山本　隆 教授
博士(歯学)大阪大学、大阪大学名誉教授

大阪大学歯学部(口腔生理学)助手、講師、助教授を経て、大阪大学人間科学部(行動生理学)教授。米国モネル化学感覚研究所留学。中国河北師範大学名誉教授。大阪大学名誉教授。畿央大学健康栄養学科教授。畿央大学図書館長。畿央大学健康科学研究所長。日本生理学会、日本神経科学学会、日本味と匂学会(元会長)などの学会活動。日本味と匂学会賞、安藤百福賞大賞、杉田玄白賞。Frontiers in Neuroscience誌、Scientific Reports誌のEditorial Board Member。

テーマ例
- ○味と香りの学習、記憶に関する行動学的・神経科学的研究
- ○食べ物のおいしさ、まずさを生じる末梢と中枢のメカニズム
- ○食成分の機能性、特にわさびの糖尿病予防効果に関する研究

西山　紀子 教授
修士(工学)京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士前期課程修了後、専門学校で教鞭をとりながらインテリアデザインを研究、その後京都橘大学、九州女子大学を経て平成27年畿央大学教授。生活行動とインテリアエレメントの関係性や、分娩空間および産褥期の生活空間における医療機能確保と居住環境向上の両立性に関する研究を行うなど、特にインテリア計画の領域を専門とする。一級建築士。

テーマ例
- ○産科病棟入院室(病室)の環境改善に関する研究
- ○産科外来空間のインテリアデザインに関する研究
- ○ユニバーサルデザインによる育児支援の可能性に関する研究

山本　裕子 教授
博士(看護学)大阪府立大学

大阪大学医学部附属病院看護師、大阪大学助手、大阪府立大学講師、摂南大学教授を経て、平成27年度より畿央大学教授。平成17年度大阪府立大学若手研究員在外研究研修にて半年間アメリカのVillanova大学に出張し、アメリカの看護教育について研究。主な研究領域は慢性看護学で、とくに糖尿病看護について研究している。

テーマ例
- ○糖尿病患者のセルフケアを支える看護
- ○神経難病患者を看護する看護師への支援
- ○看護教育(特に慢性看護学)のあり方

小西　洋太郎 教授
博士(保健学)徳島大学、大阪市立大学名誉教授

1978年徳島大学大学院栄養学研究科博士課程単位取得退学。同大学歯学部助手を経て大阪市立大学生活科学部助手。1985年日本学術振興会特定国派遣研究員としてベルギー・ルーヴァン大学に留学。助教授を経て大学院生活科学研究科教授。この間研究科長・学部長を務めた。2014年厚生労働大臣表彰(栄養士養成功労者)。2015年畿央大学健康科学部健康栄養学科長。2016年より日本栄養・食糧学会理事および近畿支部長。

テーマ例
- ○アマランサスやキヌアなど低利用有用食料資源の食品栄養学的研究
- ○食品科学の立場からアンヒドロ糖の機能性の開発

村木　悦子 准教授
博士(食品栄養科学)静岡県立大学

神戸女子大学家政学部卒業、同大学院を経て、大阪市立大学附属病院栄養部研修生。城西大学薬学部医療栄養学科助手および同短期大学部非常勤講師を兼任。国立精神・神経医療研究センター神経研究所流動研究員および同病院臨床検査部管理栄養士を併任。静岡県立大学にて博士取得。2014年より現職。管理栄養士。専門は臨床栄養学、栄養生理学、食品栄養科学。研究テーマは香辛料の生活習慣病予防への活用他。

テーマ例
- ○ハーブ・スパイスの生活習慣病予防・改善効果に関する研究
- ○糖代謝異常と精神疾患に関する研究
- ○脂質の質に注目したロコモティブシンドローム予防・改善効果に関する研究

教育学研究科
教育実践学専攻

理論的・科学的視点に立った教育実践力を養成

教育学研究科のカリキュラムは、研究活動の土台となる専門基礎科目、「教育実践学」と「発達支援教育」分野の専門科目、そして教育実践力を養成する演習科目、研究指導が有効に組み合わさった内容になっています。理論を実践的に検証して研究論文としてまとめていくと同時に、教育実践力そのものを鍛える内容が特色です。

教育学研究科が主に取り組む現代の教育課題

1. いじめや不登校の問題
2. 特別支援教育の充実
3. ICTを活用した教育方法・技術の開発・応用

教育学研究科では現代の教育諸課題の中でも上記の３つの課題に焦点をあて、それぞれに実践的に取り組むことのできる専門性を持った教員を配置しました。教育課程・学校経営、そして障がいや健康問題など困難さを抱える子どもについては右図のように実践、分析、改善策立案を繰り返し、実践的解決力を身につけます。

経験を「実践知」「臨床知」に変える

教育学研究科長
前平　泰志
京都大学大学院　教育学研究科
名誉教授

教育が知識伝達のプロセスと考える時代は終わりました。グローバル化や情報化、少子高齢化といった未曽有の社会変動の中で、学校現場においては、いじめや不登校の問題をはじめとして様々な教育課題に直面しています。そして、それらの課題解決には、かつて学んだ知識や技術であい対するだけでは不十分です。先端的な研究に裏打ちされた高度な専門的知識や技術と実践的指導力を持つ「教育」者の登場が待たれています。

こうした新しい知の創造の拠点にふさわしい場が、畿央大学大学院教育学研究科（修士課程）です。人と人が出会う場では、たえず教育が行われています。本研究科は、学校教員や教育関連学部を卒業した人たちの現職教育の場として位置づけられますが、そればかりでなく、対人関係を専門職とされている人や専門職をめざそうとしているすべての人に開かれています。

本研究科は、「教育」の現場で起こる諸課題の解決に資するために、「教育実践知」「臨床知」というキーワードをたずさえて教育と研究にあたっています。それは、教育の現場や地域との連携を目指す意志の表明でもあります。研究の成果を地域に還元し、地域の教育の発展と課題解決に貢献することも本研究科の使命です。

本研究科では現代の教育課題の解決に真摯に取り組み、現場の実践の改善に指導的役割を果たそうとする方々の入学をお待ちしています。

教育学研究科 教育実践学専攻

修士課程　2年

【 教育実践力を高めて、課題解決を図る 】

取得できる学位　教育学研究科修士課程　修士（教育学）（Master of Education）

専修免許状（小学校・幼稚園・養護教諭）が取得可能

大学院入学時に一種免許状を取得されている方は、所定科目の単位を取得し大学院修士課程を修了することで専修免許状を取得できます。

取得できる免許の種類と所要年数				
一種免許状	▶▶▶	専修免許状 ※1	… 小学校教諭 ・ 幼稚園教諭 ・ 養護教諭	2年間
免許状なし	▶▶▶	専修免許状 ※1	… 小学校教諭 ・ 幼稚園教諭 ・ 養護教諭	3年間
免許状なし	▶▶▶	一種免許状 ※2	… 小学校教諭 ・ 幼稚園教諭 ・ 養護教諭	3年間

※1 専修免許状取得には当該校種の一種免許状を取得し、大学院授業科目のうち指定された12科目24単位を修得することが必要です。
※2 一種免許状取得には、学部の科目等履修により小学校教諭67単位、幼稚園教諭59単位、養護教諭64単位が必要ですが、既に取得されている資格・単位によっては軽減されます。授業は昼間に前期・後期各15回が行われ、また教育実習や介護等体験（小学校教諭のみ）も必要となります。

教員免許状を取得していない方も、最短3年で専修免許状が取得できます。

現在教員免許状を取得していない方は、大学院の「長期履修制度」と学部の授業を「科目等履修制度」で単位取得することで当該校種の一種免許状を取得でき、加えて大学院で所定科目を履修することで専修免許状が取得できます（最短3年）。長期履修制度利用による大学院の学費総額には変わりはありませんが、科目等履修については有料（学部の授業は1科目につき20,000円）です。大学院で教員免許状を取得し教員をめざす方の教員採用試験対策については、畿央大学教採・公務員対策室が全面的にバックアップします。

大学院（長期履修）夜間・土曜日 ライブ授業 ＋ **教育学部**（科目等履修）昼間 学外実習
↓
修士（教育学）学位
専修免許状・一種免許状

履修モデル

必修科目及びそれぞれの問題意識や興味・関心によって選択科目を履修します。1人の学生の履修ケースを下記に示しますが、これ以外の履修ももちろん可能です。また、1年次に配当されている科目を2年次に受講することや、修了要件以上の単位数を取得することも可能です。

■いじめや不登校といった教育課題の解決をめざす学生のケース（数字は単位数）

		専門基礎科目 必修		専門基礎科目 選択		専門科目		演習及び特別研究		単位合計
1年次	前期	美しく生きるための教育学総合特論	2	教育法制特論	2			演習Ⅰ	2	12
		教育課題実践演習	2	教育学特論Ⅱ（教育方法・技術）	2					
		教育学特論Ⅰ（哲学・思想・史）	2							
	後期	論文演習	2	地域課題実践演習	2	教育実践学特論Ⅱ（学級経営・評価）	2	演習Ⅱ	2	10
						教育実践学特論Ⅲ（学校経営・評価）	2			
2年次	前期			教育心理学特論※	2	教育実践学演習	2	特別研究Ⅰ	2	8
						臨床・教育相談実践演習Ⅱ（カウンセリング）	2			
	後期					臨床・教育相談実践演習Ⅰ（生徒指導）	2	特別研究Ⅱ	2	4
合計		8（8）		8（6）		10（8）		8（8）		34（30）

注：表中※の付いたは科目は、1年次配当の専門基礎科目を2年次で履修するもの
注：単位の欄の（　）内の数字は修了要件の単位数

論文作成の流れ

出願時　出願時に研究指導を希望する教員を決める。入学後は2年間その教員の指導のもとに学位論文を完成させていく。

1年次
- 7月 研究テーマ決定
- 9月 研究開始
- 9月 中間発表会

2年次
- 1月 論文提出 最終発表
- 2月 最終試験論文審査

※院生一人あたり1年次および2年次に10万円の院生実習費を、指導教員の指導の下に研究のために使用することができます。

必　修

美しく生きるための教育学総合特論

この科目は、本学の建学の精神「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」と教育学の関わりを追究する必修科目である。教育学、教育内容・方法論、道徳教育、心理学、図画工作科教育法の各専門領域のそれぞれの立場から、教育に携わる者としての理想や目標となる「美しく豊かな生き方」とはどのようなものであるかを考察する。

教育課題実践演習

現代の教育課題やニーズについて、自身の学校現場、諸機関による調査、時事ニュース等を手掛かりに、その課題の所在や要因、背景等を多様な視点で受講者自身が分析、考察し、発表する。その後、受講者の司会によって話し合い、実践経験からの意見や理論的側面からの意見、国際的な動きや地域の状況など、多様な視点から議論し、担当教員が総括する。取り上げるのは「教育課程の編成」「学級経営・学校経営」「いじめの問題」「不登校」「発達障害・特別支援教育」「学校保健・学校看護・健康教育」に関する課題で、専門科目の「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」や「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」の導入ともなる内容である。

特色ある科目

地域課題実践演習

本授業の目的は、地域社会と学校教育の関係性について実践的な理解をした上で、地域と有機的に機能し合う教育を実践できる能力を身に付けることである。地元地域の教育課題については教育委員会や指導主事等を招いて、また教育研究機関への訪問調査も予定している。保護者からの意見はPTA、少年の健全育成から見た課題や福祉からの視点は健全育成関係機関や福祉機関等の協力も得て、具体的な教育課題の実態を把握する。そのうえで課題解決のためのプレゼンテーションと議論・検討を行う、学生主体のアクション・リサーチ型演習授業である。

臨床・教育相談実践演習Ⅰ（生徒指導）
臨床・教育相談実践演習Ⅱ（カウンセリング）

臨床・教育相談分野に特化して、さらに深くかつ実践的に学修する。生徒指導・カウンセリングについて実践事例を取り上げながら理論等との関連を踏まえた議論を深め、児童生徒や保護者と信頼関係を築き、問題解決に向けて協働的に試行錯誤できる実践力を身につける。

開設科目一覧

	科目名	配当年次	授業形態	単位数	修了要件
専門基礎科目	美しく生きるための教育学総合特論 必修	1前	講義	2	7科目14単位以上
	教育課題実践演習 必修	1前	演習	2	
	地域課題実践演習	1後	演習	2	
	論文演習 必修	1後	演習	2	
	統計解析評価演習	1前	演習	2	
	ICT応用演習	1後	演習	2	
	教育学特論Ⅰ（哲学・思想・史） 必修	1前	講義	2	
	教育学特論Ⅱ（教育方法・技術）	1前	講義	2	
	発達脳科学特論	1後	講義	2	
	教育心理学特論	1前	講義	2	
	比較教育学特論	1後	講義	2	
	教育法制特論	1前	講義	2	
専門科目	教育実践学特論Ⅰ（教育課程・評価）	1後	講義	2	4科目8単位以上
	教育実践学特論Ⅱ（学級経営・評価）	1後	講義	2	
	教育実践学特論Ⅲ（学校経営・評価）	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅰ（発達障害）	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅱ（障害児教育）	1後	講義	2	
	発達支援教育特論Ⅲ（学校保健・学校看護）	1後	講義	2	
	健康教育特論（運動と栄養）	2後	講義	2	
	教育実践学演習	2前	演習	2	
	発達支援教育実践演習	2前	演習	2	
	臨床・教育相談実践演習Ⅰ（生徒指導）	2後	演習	2	
	臨床・教育相談実践演習Ⅱ（カウンセリング）	2前	演習	2	
演習及び特別研究	演習Ⅰ	1前	演習	2	4科目8単位以上
	演習Ⅱ	1後	演習	2	
	特別研究Ⅰ	2前	演習	2	
	特別研究Ⅱ	2後	演習	2	

教育実践学演習・発達支援教育実践演習

「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」、「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」、「健康教育特論（運動と栄養）」を学んだ上で、自分が解決したいと考える課題に対して学生それぞれが3回の実践にチャレンジ。解決策の立案からその評価・分析、さらなる改善策の構築を教員そして同時に受講している仲間たちとも経験交流、意見交換することで新たな可能性が拓ける。

※上記サイクルを3回行いステップアップを図ります

修了要件および履修方法

専門基礎科目14単位 ＋ 専門科目8単位 ＋ 演習及び特別研究8単位

専門基礎科目から14単位以上、専門科目から8単位以上、演習及び特別研究から8単位以上を修得し、加えて教育学研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格することによって学位を取得することができます。

教員プロフィール

冬木　正彦 教授
博士(理学)京都大学、関西大学名誉教授

関西大学工学部専任講師、助教授、教授を経て関西大学大学院で研究指導を担当。授業と学習を統合的に支援するソフトウェアCEAS(シーズ)の開発を行い平成16年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援事業の推進責任者を務めた。CEASは関西大学、畿央大学等で全学利用されている。大学全体の教育支援、専門英語教育の普及促進についても業績を上げている。現在、冬木学園理事長、畿央大学学長。

テーマ例
- ○クラウド環境におけるICT活用能力育成教育
- ○「反転授業」の実施方式と科目特性の関連
- ○校務支援システムのあり方と有効性の検討

前平　泰志 教育学研究科長　教授
修士(教育学)京都大学、京都大学名誉教授

ユネスコ教育研究所所員、京都大学教育学部助手、甲南女子大学講師、助教授、教授を経て、京都大学助教授、教授、大学院教育学研究科長、教育学部長を歴任。平成27年度より畿央大学教育学部長。専門は生涯教育学。教育をマクロな視点で捉える研究からシフトし、現在はミクロな視点に立って、地域に足を運びながら、教育の新たな理論と実践を構築するための研究に取り組んでいる。

テーマ例
- ○<ローカルな知>の研究
- ○教育における時・空間の研究
- ○自己教育の研究

渡邉　健治 教授
博士(教育学)筑波大学、東京学芸大学名誉教授

東京学芸大学専任講師、助教授、教授を経て平成16年より20年まで東京学芸大学理事・副学長。その間日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門代表、日本特殊教育学会で免許問題等検討委員会委員長を務め、特別支援教育について文部科学省にも提言。現在も障害児教育実践研究会会長を務めるなど日本における障害児教育の理論と実践のリーダー役として活躍している。

テーマ例
- ○小・中学校における特別支援教育体制の比較研究
- ○地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究
- ○知的障害教育における学力問題の研究

島　恒生 研究科主任・教授
修士(教育学)兵庫教育大学

小学校教諭、奈良県立教育研究所教科指導副部長を経て、畿央大学教育学部教授。文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者」「中央教育審議会初等教育分科会道徳教育専門部会委員」「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議委員」を務める。道徳教育、生徒指導、学級経営等についての執筆多数。全国の教育委員会や学校での研修会講師として活躍している。

テーマ例
- ○道徳教育や道徳科の時間の指導の研究
- ○道徳的実践としての特別活動の意義
- ○道徳教育と生徒指導、人権教育等との関連

石川　裕之 准教授
博士(教育学)京都大学

京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教を経て畿央大学教育学部助教、准教授。その間、国立教育政策研究所研究協力委員、国際日本文化研究センター共同研究員などを兼任。平成24年日本比較教育学会平塚賞受賞。韓国をフィールドに、才能教育や高等教育に関する研究、子育て支援制度に関する研究など幅広く取り組んでいる。

テーマ例
- ○東アジア諸国における早期英語教育の現状と課題
- ○開発途上国における教育援助の実態とNGOの役割
- ○日本における外国人児童・生徒のアイデンティティと学校教育

岡本　啓子 教授
博士(保健看護学)川崎医療福祉大学

高等学校養護教諭、奈良県立医科大学医学部看護学科講師を経て、畿央大学教育学部准教授、教授。養護教諭のあり方を軸として、健康課題へと有効に働くその専門性とは何か、どうしたらその専門性につなぐことが出来るのか、連携・協働・コーディネーションを中心に研究している。学校保健と地域保健との連携を追求し、地域障害児サークルにおけるサポート活動にも取り組んでいる。

テーマ例
- ○学校保健看護における他職種や地域との連携・協働のあり方
- ○養護教諭のフィジカルアセスメント能力育成プログラムの構築
- ○養護教諭のコーディネーション

大久保　賢一 准教授
博士(心身障害学)筑波大学

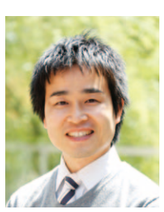
筑波大学大学院博士課程において発達障害支援の臨床活動や研究に携わり、2010年に学位を取得。2008年から14年まで北海道教育大学准教授として特別支援教育に関わる科目の教鞭を執り、2014年4月から現職へ。専門は応用行動分析学、行動コンサルテーション。最近は学校支援(教員研修)や福祉事業所における強度行動障害支援にも精力的に取り組んでいる。

テーマ例
- ○行動問題に関わる教員研修プログラムの開発
- ○School-wide Positive Behavior Supportに関する実証的研究
- ○ダイバシティ教育に関する理論的検討

西端　律子 教授
博士(人間科学)大阪大学

大阪府立工業高等専門学校助手、専任講師、大阪大学人間科学部助手、大阪大学大学院助教を経て畿央大学教育学部准教授、教授。教育システム情報学会役員、日本情報科教育学会理事、情報コミュニケーション学会理事を兼任。高等学校共通教科「社会と情報」「情報の科学」教科書やメディアリテラシーに関する執筆多数。ソーシャルメディアの問題にも取り組んでいる。

テーマ例
- ○タブレットPCを利用した授業実践の開発と蓄積
- ○特別支援教育におけるデジタルコンテンツの開発と共有
- ○家庭や地域と連携する情報モラル教育のカリキュラム開発



細越　寛樹 准教授
博士(教育学)筑波大学

京都文教大学臨床心理学部講師を経て畿央大学教育学部助教、准教授。日本臨床ゲシュタルト療法学会常任理事、国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター客員研究員、京都市教育相談総合センターカウンセラーを兼任。臨床心理士。心理的援助者の養成や、認知行動療法やゲシュタルト療法に基づいた介入プログラム開発などに取り組んでいる。

テーマ例
- ○慢性痛患者や産業人に対する認知行動療法プログラムの開発と実践
- ○感情調整の作用機序および介入プログラムの開発
- ○対処的悲観性のメカニズムおよび対処的悲観者の心身の健康

入学までの流れ

事前相談(必須) ▶ 入学資格審査 ※必要のある方のみ ※ページ下部をご覧ください ▶ 出　願 ▶ 試　験 ▶ 合格発表 ▶ 入学手続

事前相談について…本大学院の受験を希望される方は、出願手続を行う前に、研究テーマ等について志望する研究領域の指導教員への事前相談を必ず行ってください。希望する研究内容の指導教員が不明な時は、○のついた総合窓口の担当者にご相談ください。

健康科学研究科

教員名	修士課程	博士後期課程	メールアドレス	教員紹介
金子　章道 ○	神経リハビリテーション学	生体機能科学	a.kaneko@kio.ac.jp	P10
森岡　周 ○	神経リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	s.morioka@kio.ac.jp	P10
松尾　篤	神経リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	a.matsuo@kio.ac.jp	P10
岡田　洋平	神経リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	y.okada@kio.ac.jp	P10
冷水　誠	神経リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	m.hiyamizu@kio.ac.jp	P10
前岡　浩	神経リハビリテーション学		h.maeoka@kio.ac.jp	P10
信迫　悟志	神経リハビリテーション学		s.nobusako@kio.ac.jp	P10
田平　一行	呼吸リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.tabira@kio.ac.jp	P10
庄本　康治	物理医学系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.shomoto@kio.ac.jp	P11
高取　克彦	物理医学系リハビリテーション学	健康リハビリテーション科学	k.takatori@kio.ac.jp	P11
今北　英高	運動生理機能学	健康リハビリテーション科学	h.imagita@kio.ac.jp	P11
峯松　亮	運動生理機能学	健康リハビリテーション科学	a.minematsu@kio.ac.jp	P11
永澤　健	運動生理機能学	生体機能科学	t.nagasawa@kio.ac.jp	P11
東山　明子	スポーツ科学	生体機能科学	a.higashiyama@kio.ac.jp	P11
瓜谷　大輔	スポーツ科学		d.uritani@kio.ac.jp	P11
福本　貴彦	スポーツ科学		t.fukumoto@kio.ac.jp	P11
河野　由美 ○	看護学		y.kono@kio.ac.jp	P12
堀内美由紀	看護学		m.horiuchi@kio.ac.jp	P12
松本　泉美	看護学		i.matsumoto@kio.ac.jp	P12
山崎　尚美	看護学		n.yamasaki@kio.ac.jp	P12
山本　裕子	看護学		yuko.yamamoto@kio.ac.jp	P12
廣金　和枝	看護学		k.hirokane@kio.ac.jp	P12
堀江　尚子	看護学		n.horie@kio.ac.jp	P12
文　鐘聲	看護学		j.moon@kio.ac.jp	P12
祐實　泰子	看護学		t.sukezane@kio.ac.jp	P12
小西洋太郎 ○	健康栄養科学	健康生活環境科学	y.konishi@kio.ac.jp	P12
金内　雅夫	健康栄養科学	健康生活環境科学	m.kanauchi@kio.ac.jp	P13
栢野　新市	健康栄養科学	健康生活環境科学	s.kayano@kio.ac.jp	P13
前原佳代子	健康栄養科学	健康生活環境科学	k.maehara@kio.ac.jp	P13
山本　隆	健康栄養科学	生体機能科学	ta.yamamoto@kio.ac.jp	P13
村木　悦子	健康栄養科学		e.muraki@kio.ac.jp	P13
三井田康記 ○	環境デザイン学		k.miida@kio.ac.jp	P13
東　実千代	環境デザイン学	健康生活環境科学	m.azuma@kio.ac.jp	P13
藤井　豊史	環境デザイン学		to.fujii@kio.ac.jp	P13
西山　紀子	環境デザイン学		n.nishiyama@kio.ac.jp	P13

教育学研究科

教員名	修士課程	メールアドレス	教員紹介
前平　泰志 ○	生涯教育学	y.maehira@kio.ac.jp	P18
島　恒生	道徳教育、特別活動	t.shima@kio.ac.jp	P18
岡本　啓子	養護教育、学校保健	k.okamoto@kio.ac.jp	P18
西端　律子	教育工学、教育方法	r.nishibata@kio.ac.jp	P18
冬木　正彦	教育の情報化	ma.fuyuki@kio.ac.jp	P18
渡邉　健治	特別支援教育	k.watanabe@kio.ac.jp	P18
石川　裕之	比較教育学	h.ishikawa@kio.ac.jp	P18
大久保賢一	特別支援教育	k.ohkubo@kio.ac.jp	P18
細越　寛樹	臨床心理学	h.hosogoshi@kio.ac.jp	P18

入学資格審査について

【対象となる方】
大学院入学資格を有しない方で、2017年4月1日までに修士課程は22歳に、博士後期課程は24歳に達する方。(修士課程はP20出願資格9、博士後期課程はP21出願資格6を参照)

【審査方法】
申請書類により行う。

【申請受付期間(消印有効)】
1期　2016年8月1日(月)～2016年8月19日(金)
2期　2016年12月1日(木)～2016年12月23日(金)

【申請書類】
①**入学資格審査申請書**(本学所定様式・本学ホームページからダウンロード)
②**出身校の成績証明書**および**卒業(修了)証明書**
③社会人選抜での出願を希望する場合は、社会における実務経験の期間および内容を証明できるものや、取得した資格の証明書(コピー)を添付すること。

【申請書類送付先】
〒635-0832
奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
畿央大学入学センター
※封筒の表面に「大学院入学資格審査申請書在中」と朱書きすること。

【審査結果】
審査結果は、各入試日程の出願開始日までに申請者宛に送付する。
ただし有効期間は交付日より2年間とする。

健康科学研究科・教育学研究科 修士課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究科	専攻	入学定員	1期	2期	修業年限
健康科学	健康科学	20名	15名	5名	2年
教育学	教育実践学	10名	7名	3名	2年

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください（P.19参照）。

出願資格

【一般選抜試験】

次の1～9のいずれかに該当する者

1. 大学を卒業した者及び2017年3月卒業見込みの者
2. 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
3. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2017年3月修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
5. 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2017年3月までに修了見込みの者
6. 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
7. 文部科学大臣の指定した者
8. 学校教育法第102条の規定により大学院に入学した者で、本大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
9. 2017年4月1日現在満22歳以上の者で、本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

注）出願資格9による出願者は、事前に入学資格審査が必要 です。（P19「入学資格審査について」参照）

【社会人選抜試験】

一般選抜試験の出願資格1～9のいずれかに該当し、2017年4月1日現在満23歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者
※本研究科に関連する国家資格や免許等を取得している者は、これを優先する。

注）出願資格9による出願者は、事前に入学資格審査が必要 です。（P19「入学資格審査について」参照）

【学内推薦試験】

畿央大学を2017年3月に卒業見込みの者で、卒業研究指導教員の推薦書が得られる者

入試日程

試験区分	出願期間		試験日	合格発表日
	郵送受付（消印有効）	窓口受付日		
1期	2016年 9月1日（木）～ 9月13日（火）	2016年 9月13日（火）・9月14日（水） 9:00 ～ 17:00	2016年 9月25日（日）	2016年 10月1日（土）
2期	2017年 1月12日（木）～ 1月24日（火）	2017年 1月24日（火）・1月25日（水） 9:00 ～ 17:00	2017年 2月5日（日）	2017年 2月11日（土）

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語※	100点
	専門科目（研究領域に関する筆記試験）	100点
	面接（個人面接形式）	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
社会人選抜	小論文（研究領域に関する内容）	100点
	面接（個人面接形式）	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
学内推薦	専門科目（研究領域に関する筆記試験）	100点
	面接（個人面接形式）	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価

※英語は英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）

試験時間割

一般選抜試験　集合時間12:50

英　語	13:00 ～ 14:00（60分）
専門科目	14:20 ～ 15:40（80分）
面　接	15:50 ～順次

社会人選抜試験　集合時間14:10

小 論 文	14:20 ～ 15:40（80分）
面　接	15:50 ～順次

学内推薦試験　集合時間14:10

専門科目	14:20 ～ 15:40（80分）
面　接	15:50 ～順次

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

出願書類等

1. **入学志願票**（本学所定用紙）
2. **成績証明書・卒業（見込）証明書**
   出願資格を満たす大学等の成績証明書・卒業（見込）証明書
   ※出願資格9に該当する者、もしくは最終学歴校以外で、本研究科に関連する国家資格、免許等を取得した者は、上記に加えて資格、免許等を取得した教育機関（短期大学・専門学校・各種学校等）の成績証明書・卒業（見込）証明書もあわせて提出すること
3. **志望理由書**（800字程度、書式自由）
4. **研究計画書**（1000字程度、書式自由）または**卒業論文**（これに準ずる研究報告書・論文等の写し）
5. **卒業研究指導教員の推薦書**（学内推薦試験のみ）
6. **業績調書**（社会人選抜試験のみ、書式自由。任意提出）

健康科学研究科 博士後期課程 募集要項

入学定員・募集人員・修業年限

研究分野	入学定員	1期	2期	修業年限
健康生命科学 健康支援科学	5名	3名	2名	3年

出願手続を行う前に、指導教員への事前相談を必ず行ってください（P.19参照）。

出願資格

【一般選抜試験】

次の1～6のいずれかに該当する者

1. 修士の学位や、専門職学位を有する者、または2017年3月までに取得見込みの者
2. 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2017年3月までに授与される見込みの者
3. 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2017年3月までに授与される見込みの者
4. 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者、または2017年3月までに授与される見込みの者
5. 文部科学大臣の指定した者
6. 2017年4月1日現在満24歳以上の者で、本大学院において個別の入学審査により、修士の学位を有するものと同等以上の学力があると認めた者

注）出願資格6による出願者は、事前に入学資格審査が必要です。（P19「入学資格審査について」参照）

【社会人選抜試験】

一般選抜試験の出願資格1～6のいずれかに該当し、2017年4月1日現在26歳以上で、入学時において医療・保健・福祉、教育研究機関、官公庁、企業等で2年以上の実務経験を有する者

注）出願資格6による出願者は、事前に入学資格審査が必要です。（P19「入学資格審査について」参照）

【学内推薦試験】

畿央大学健康科学研究科修士課程を2017年3月に修了見込みの者で、指導教員の推薦書が得られる者

入試日程

試験区分	出願期間		試験日	合格発表日
	郵送受付（消印有効）	窓口受付日		
1期	2016年 9月1日（木）～ 9月13日（火）	2016年 9月13日（火）・9月14日（水） 9:00 ～ 17:00	2016年 9月25日（日）	2016年 10月1日（土）
2期	2017年 1月12日（木）～ 1月24日（火）	2017年 1月24日（火）・1月25日（水） 9:00 ～ 17:00	2017年 2月5日（日）	2017年 2月11日（土）

選抜方法

筆記試験、面接および書類審査により入学者を選抜します

選抜種別	試験内容	配点
一般選抜	英語※1	100点
	専門科目（研究領域に関する筆記試験）※2	100点
	面接（個人面接形式）	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価
社会人選抜 学内推薦	英語※1	100点
	小論文（研究領域に関する内容）※2	100点
	面接（個人面接形式）	段階評価
	研究計画書その他の提出書類	段階評価

※1 英語は英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
※2 専門科目および小論文では英語の出題を含む場合があります（辞書持込不可）

試験時間割

＜共通＞集合時間12:50

英　語	13:00 ～ 14:00（60分）
専門科目または小論文	14:20 ～ 15:40（80分）
面　接	15:50 ～順次

面接の順番により、待機時間が生じる場合があります。

出願書類等

1. **入学志願票**（本学所定用紙）
2. **出身大学院等の成績証明書**
3. **出身大学院等の修了（見込）証明書**または**学位授与証**（本学研究科修士課程出身者は不要）
4. **研究計画概要**および**研究計画書**（3000字程度、書式自由）
5. **修士論文等2部**
   - 出身大学院に提出した修士学位論文の写し（本学研究科修士課程出身者は不要）
   - 修士学位論文提出以後の研究業績を有する者は業績一覧および主たる論文の写し
   - 修士の学位を有しない者は、業績一覧および主たる論文の写し
6. **研究科指導教員の推薦書**（学内推薦試験のみ）

"働きながら通える
「畿央大学大学院」のヒミツって？"
健康科学研究科、教育学研究科の紹介ムービーを公式YouTubeチャンネルで配信中です。
1分でわかる畿央大学

出願共通事項

試験会場

畿央大学（奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2）

入学検定料

各日程　35,000円

出願手続・方法

指導教員への事前相談（P.19参照）を必ず行った上で出願書類を一括取り揃え、入学検定料を納付の上、本学所定の大学院入試出願用封筒を使用し、必ず簡易書留速達にして郵送してください（**締切日消印有効**）。なお、**指定された窓口受付日の9時～17時に限り、大学事務室内・入学センター窓口で出願書類および入学検定料を受け付けます。**

出願上の注意

1. いったん提出された出願書類および納付された入学検定料は、いかなる理由によっても返還しません。
2. 受験票は、出願書類受付後に速達で郵送します。万一、試験実施日の3日前までに届かない場合は、入学センター（0745-54-1603）へお問い合せください。

受験上の注意

1. 試験会場の下見は、試験前日の午後（13：00～17：00）に可能ですが、試験室に入ることはできません。
2. 試験当日は集合時間の1時間前から試験室に入ることができます。遅刻は試験開始後30分までは認めますが、30分を超えた場合は受験できません。

合格発表

1. 合否結果は合格・不合格ともに合格発表日の前日に本人宛に速達郵便で発送します。合否に関する電話等による問い合わせには一切応じられません。
2. 合格者には合格通知書と同時に入学手続関係書類を郵送します。
3. 欠席・途中放棄は「不合格」として判定・通知します。

入学手続

合格者は、合格通知書に同封する入学手続要項を熟読の上、入学手続を行ってください。入学手続期間内に手続書類の提出および納付金の振込など所定の手続をしなかった場合は、入学の意志がないものとみなし、入学資格を取り消します。

試験区分	試験日	合格発表日	第1次 入学手続締切日	第2次 入学手続締切日
1期	2016年 9月25日(日)	2016年 10月1日(土)	2016年 10月21日(金)	2016年 11月4日(金)
2期	2017年 2月5日(日)	2017年 2月11日(土)	2017年 2月24日(金)	2017年 3月10日(金)

入学手続内容

第1次入学手続（入学申込金の納付）
第1次入学手続締切日までに入学申込金として入学金相当額（190,000円）を金融機関で振り込んでください。振込依頼書は合格通知書に同封します。

第2次入学手続（入学手続書類の提出および前期学納金の納付）
第2次入学手続締切日までに前期学納金を金融機関で振り込み、入学手続書類を郵送してください。入学手続完了後、すでに納付されている入学申込金は入学金として取り扱います。なお、第1次入学手続を完了していない場合、第2次入学手続を行うことはできません。

入学手続に必要な納付金

	第1次手続納付金	第2次手続納付金（前期学納金）				入学手続に必要な金額（合計）
	入学申込金	授業料	教育充実費	同窓会費	小計	
健康科学研究科（修士課程・博士後期課程）	190,000円	250,000円	125,000円	16,000円	391,000円	581,000円
教育学研究科	190,000円	250,000円	50,000円	16,000円	316,000円	506,000円

※畿央大学卒業（見込）生は修士課程および博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。また本学大学院修士課程修了（見込）者は博士後期課程の入学申込金および同窓会費を免除します。

2017年度学生納付金

	入学金	授業料	教育充実費	同窓会費	初年度納付金（合計）
健康科学研究科（修士課程・博士後期課程）	190,000円	500,000円	250,000円	16,000円	956,000円
教育学研究科	190,000円	500,000円	100,000円	16,000円	806,000円

※1. 入学金、同窓会費は入学初年度のみ徴収します。
2. 初年度納付金から入学手続に必要な金額を差し引いた残額は2017年9月に徴収します。

入学辞退による納付金一部返還制度について

入学手続時納付金を全額納付し入学手続を完了後（第2次手続完了後）、やむをえない理由により入学を辞退する場合、2017年3月30日（木）17：00までに「入学辞退並びに納付金一部返還願」を提出した方に限り、入学申込金を除く入学手続時納付金を返還します。

大学院特別奨学金制度について

この制度は成績優秀な学生を応援するために設けられています。1回生については入学試験の成績によって、また2回生と博士後期課程の3回生は前年度の成績によって選ばれ、年間30～35万円が給付されます。修士課程は成績上位10%程度、博士後期課程は成績上位50%程度の人数が対象となりますが、毎年審査を行い、同じ人が続いて受給することも可能です。

長期履修学生制度のご案内(修士課程のみ)

定まった職業を有する方または家事・育児または介護等を行う方を対象として、計画的な長期在学・履修により就学の便宜と授業料の軽減を図る「長期履修学生制度」を設けています。希望される方は入学手続き時に申請が必要となります。また、入学後に長期履修学生制度に変更することも可能です。

注意事項

次のいずれかに該当する場合は合格を取り消します。

1. 虚偽・不正の記載または出願資格を満たさない事実が判明した場合。
2. 2017年3月大学等を卒業見込みの者が卒業できなかった場合(修士課程)。
3. 2017年3月に修士の学位を取得見込みの者が取得できなかった場合（博士後期課程）。

その他

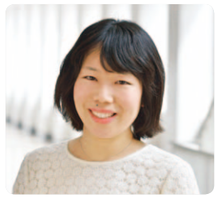
本学は学内外を問わず、全面禁煙を実施しています。

院生メッセージ

石垣　智也さん
健康科学研究科博士後期課程2年在籍
勤務先：東生駒病院
※出向先：訪問看護リハビリステーションフィットケア

人の姿勢制御を研究し リハビリ効果の向上に役立てる。

臨床現場を離れると研究の妥当性を判断できないと思い、働きながら大学院に通うことを選択。現在は姿勢制御を研究しています。2者が体に触れ合うと無意識に体の揺らぎが同調することが知られていますが、この現象について人間関係の良さという心理学的側面と、脳活動という神経科学的側面から研究しています。この研究は、患者さんと理学療法士の関係がリハビリ効果に影響することを証明できると考えています。また、人対人だからこそ起こる現象を明らかにし、最近使われているリハビリロボットと理学療法士の住み分けに役立てたいと思います。



水田　晴野さん
健康科学研究科修士課程 1年在籍
畿央大学 健康科学部 健康栄養学科卒業

味覚生理学に興味を持ち 美味しさと脳の関係を研究。

山本隆先生の味覚生理学に関する著書を読んで「美味しさと脳の関係」を研究したいと思い、山本先生がいらっしゃる畿央大学大学院へ進学。味覚生理学と脳科学の知識を深めながら「美味しく味わう脳の仕組み」をテーマに、動物に砂糖水や出汁などを与え、脳の活動電位のデータを取っています。味覚生理学はまだ確立されていない分野。この研究がどう役立つかはわかりませんが、基礎研究として知りたいことを純粋に探求することに面白みを感じています。

廣瀬　一海さん
教育学研究科修士課程 2年在籍
勤務先：日本マイクロソフト株式会社
クラウドソリューションアーキテクト

教育指導法を体系的に学び、 エンジニア指導に活かしたい。

ICT分野のエンジニアとして勉強会などで話す機会を通して、伝える力を磨きたいと思いこの大学院へ進学しました。教育を実践的に学べること、海外出張中もLyncを使ってリアルタイムで双方向のコミュニケーションを図りながら受講できるのは大きな魅力です。目標は、教育におけるICT活用法を研究し、アプリケーションを実装すること。また、体系的な教育指導法を習得し、エンジニア指導にフィードバックしたいと思います。

Q & A

【入　試】

Q 大学の管理栄養士養成課程を卒業して病院に2年間勤めたあと、子育てのため6年前に退職しました。健康科学研究科修士課程社会人選抜試験の受験資格はありますか？

A 大学を卒業後、医療機関に2年間勤めているので社会人選抜試験の受験資格対象となります。また管理栄養士は合否判定の際に優先資格となります。

Q 2017年3月に3年制の専門学校を卒業予定です。理学療法士として就職も内定していますが、修士課程の受験資格はありますか？

A 修業年限が3年の専修学校を修了した方については、事前に本大学院において行う個別の入学資格審査が必要です。詳しくはP19を参照してください。なお、2017年4月1日現在で22歳未満の方は、修士課程の受験資格が得られませんので注意してください。

Q 社会人選抜の小論文について教えてください。

A 社会人選抜試験の小論文は80分1000字程度で、志望する研究領域に関するテーマが出題されます。概論などでベースとなる知識を身につけ、さらに自分の視点をいれながら論述する練習をしておくとよいでしょう。

Q 面接の形式について教えてください。

A 面接試験は受験者1名に対して面接委員が2、3名の個人面接形式です。筆記試験終了後、志望動機や目標、研究の目的や方法などについて質問します。

【学生生活】

Q 研究にも費用がかかると思います。自分で負担するのですか？

A 本学研究科では院生一人当たり修士課程は年間10～20万円、博士後期課程は年間20万円の院生実習費を用意しています。院生実習費は指導教員の指導の下に、研究に関係のある消耗品費、機器備品費、図書・図書資料費、印刷費、通信費、発表を伴う学会参加費、修繕費及び謝金等に使用することができます。

Q 遠方から入学したいのですが、畿央大学に行く必要はどれくらいありますか。

A 修士課程の1年次に配当されている科目や博士後期課程の共通科目については、一部を除きインターネットによるライブ授業対応となっていますので、自宅や職場での受講が可能です。その他の科目は担当教員と打ち合わせを行い、必要に応じて集中講義等で行うなど、遠方の方でも受講できるよう配慮をしています。ただし、本学の実験装置を用いた実験研究を行う場合や中間報告会、論文審査の際など重要な節目には大学に来ていただく必要があります。

Q 仕事で授業と同時に配信されるライブ授業を受けることができなかった時はどうしたら良いですか？

A ライブ授業の内容を記録してオンデマンド教材として配信を行っています。ライブ授業に参加できなかった方は、このオンデマンド教材で学習することができます。

まずは1科目から大学院の授業を受講することも可能です。

興味のある授業科目を1科目から受講することができます。受講するだけなら聴講生、単位修得を目的とするなら科目等履修生として申し込んでください。選考は原則書類審査で行い、面接を行う場合があります。ライブ授業を実施する科目は自宅からも受講できます。また、科目等履修生や聴講生は本学の施設を利用することができます。

選考手数料 …… 10,000円（初回のみ必要）
申込金 …… 20,000円（初回のみ必要）
授業料 …… 1科目につき　科目等履修 30,000円
聴講 20,000円
出願期間 …… 前期授業 3月1日～10日
後期授業 8月21日～30日

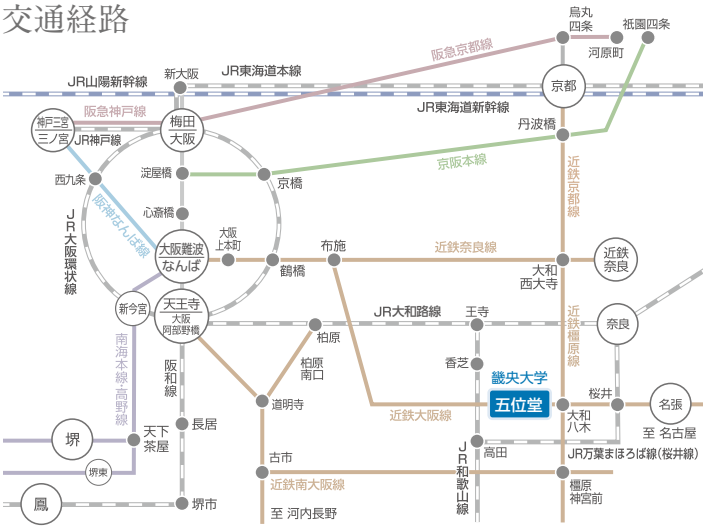
※一部、科目等履修や聴講ができない科目もあります。
※畿央大学卒業生には割引があります。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先
畿央大学学生支援センター
TEL.0745-54-1601

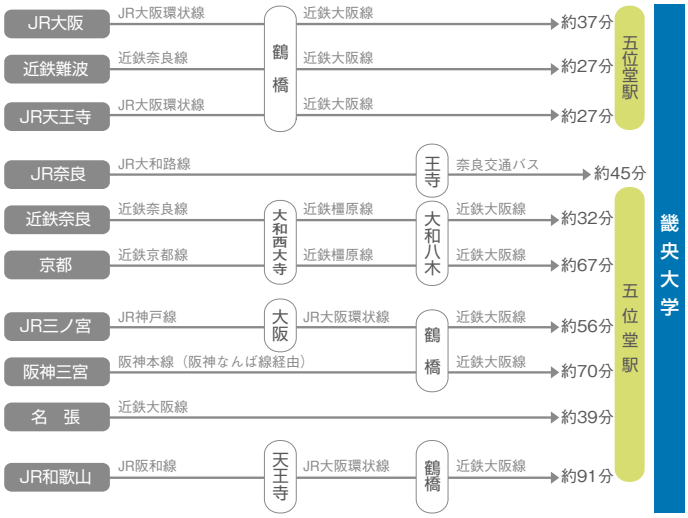
キャンパスへのアクセス

難波、天王寺から近鉄大阪線「五位堂」まで約27分

交通経路

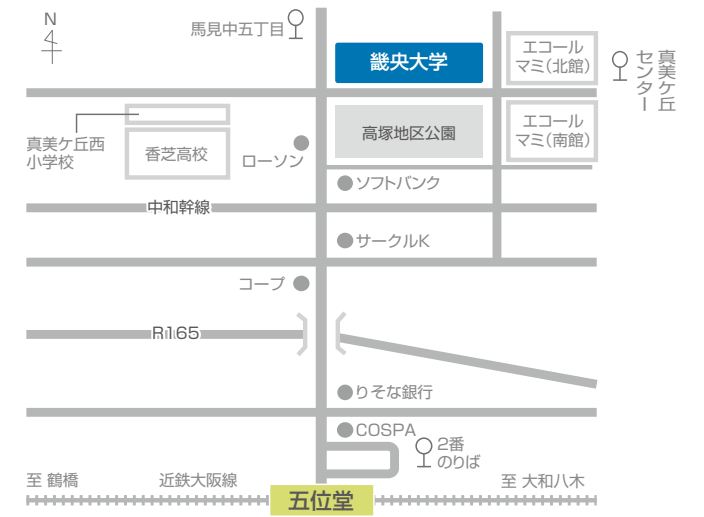


主要な駅からのルート・所要時間



近鉄大阪線「五位堂」駅からのアクセス

徒歩約15分またはバス約5分



畿央大学入学センター

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
TEL 0745-54-1603　FAX 0745-54-1600

http://www.kio.ac.jp/